

活動レポート

技術者のミライ研究委員会

文責：技術者のミライ研究委員会 幹事 永井登茂美

実践的な取組を学生と協働で。技術士をもっと知ろう！

2019 広場活用プロジェクト with 札幌工業高校

1. はじめに

当研究委員会では、これまで「技術士を知ろう！」を実施し、道内の大学や高専などの学生に技術士の仕事について理解を深めてもらうための講演を行ってきました。そのなかで「より技術士と密に接することができないか」などの意見をいただいたことから、2018年度、札幌工業高校（土木科3年生10名）で試行的に学生と協働で地域の広場活用に向けた取組を行ってきました。

広場活用の取組は、所有する広場を交流拠点としてもっと活用したいという地域の要望によるもので、住民ワークショップで活用方法等について話し合い、実現に向けた取組が必要となっていました。

2019年度は「技術士を知ろう！」の新たな展開として、当研究委員会の事業に位置付けて活動しましたので、実施内容をご報告させていただきます。

2. 年間スケジュール

本プロジェクトは年間を通じて継続的に行っており、下記のスケジュールで実施しました。

- 2019. 4.25 ガイダンス（講師：永井）
- 2019. 5.16 測量実習（参加者：永井）
- 2019. 6. 6 サポート授業（公園の計画・設計）
講師：（株）ドーコン 加藤 賢史氏
- 2019. 9. 5 サポート授業（駐車場の計画・設計）
講師：平岡
- 2019.10 駐車場施工（参加者：永井）
- 2019.11.14 広場全体計画のコンペ、評価
参加者：藤井（青技交）、千葉、永井
- 2020. 2. 1 地域に広場全体計画をプレゼン
参加者：藤井（青技交）、千葉、永井

※所属の記載がないものは、ミライ研幹事

3. 実施概要

(1) ガイダンス：いよいよ始まる！

2019年度は、札幌工業高校土木科3年生が23名参加しました。まず、土木の仕事の目的や役割、広場活用プロジェクトの概要と昨年度までの取組状況、地域の方々の意見、今年度実施してほしいことなどについて説明を行いました。その後、測量班、計画班、施工班の3班に分かれ、今後のスケジュールや進め方などについて話し合いました。

みんな、最初は何をしていいのかわからない様子。今年はどうな変化がみられるのか、とても楽しみでワクワクしてきました。



(2) 測量実習：勉強が活かせるか？

学校で勉強してきたことを実践するために、今年度対象とするエリアについて、実際に、現地測量を行いました。

実際に測量機器を使ってみると、思っていた通りに進まなく苦労した様子が見られましたが、勉強したことを活かして、実践できたことがよい経験になったようでした。



(3) サポート授業：実践的な知識を

測量した結果をもとに、今年度の広場整備について計画、設計を行うにあたり、2回のサポート授業を実施しました。

第1回目(2019.6.6)は、(株)ドーコン 加藤賢史氏に講師を依頼し、公園の計画・設計の基本的な考え方や事例などについてとてもわかりやすく講演いただき、質疑応答などを行いました。

第2回目(2019.9.5)は、当研究委員会幹事の平岡技術士が、駐車場の計画・設計の基本的な考え方などについて講演し、質疑応答などを行いました。

授業ではなかなか知ることのできない実際の仕事を通じた知識を学ぶことができ、これから検討する計画、設計の参考になった様子でした。



(4) 駐車場の施工：やっとここまで・・・

広場の計画について検討を行い、そのなかで、今年度できる整備は何かを検討した結果、駐車場の整備を行うこととしました。コストのかからない方法、お祭りなどの際に高齢の方々でも取り外しが可能なもの、現地の状況に合わせた駐車スペースの配置などについて一生懸命考え、何度か現地に通って頑張って施工しました。

地面が固い部分があり、ポールがうまく入らなかったり、簡単に思えたことがなかなか進まなかったり、設計したものが施工にどのように反映されるかなど、それぞれが実際に体験し、いろいろ感じたことがあった様子でした。



(5) 広場全体計画：堂々と地域に提案！

広場の活用、整備は今年度では終わりません。次年度以降の取組に向けて、広場の全体計画についてとりまとめを行いました。

設計班8名が各自で案を作成、プレゼンし、先生と技術士3名で評価を行い、最良案を選定しました。

その後、最良案をベースに、みんなで計画案をブラッシュアップし、最終案としてとりまとめ、広場周辺の地域で開かれた住民ワークショップの場でプレゼンしました。

ここまでくると、もう立派な技術者です。これまで検討してきた結果を堂々と地域の皆さんに提案し、地域の皆さんに喜んでいただくことができました。みんな、よく頑張りましたね！



4. おわりに

23名の高校生による、ほんの小さな取り組みだけど壮大な今年度のプロジェクトが終了しました。

住民の要望をもとにして、計画、設計、施工に取り組み、地域の皆さんからの感謝の言葉をいただけたことにより、今後の技術者としての人生に少しでも良い経験になればいいなあと思います。

この取り組みにより、「技術士」という技術者のことは十分に頭の中にインプットされたと思います。また、土木の仕事のやりがいを少しでも感じてくれた学生さんもいたのではないかと思います。

将来、技術士としてまた会えることを期待して、次年度も引き続き、新たな技術者の卵達と一緒に取り組んでいきたいと思っています。楽しみです！